

居貴不動尊物語

室町時代 康永4（1345）年ごろの莊嚴寺のお話です。

僧：奥州の僧です。一夜宿をお借りしたい

住職：どうぞ お泊りください

これなるものは？

僧：お不動様でございます

噂を聞きつけた近所の方々：ご利益がありそうだと。南無不動尊、南無不動尊と手を合わせました

翌朝

僧がお不動様を背負うとすると、それはそれは重たくて動きません

住職：何かのご縁で ここにいたいのでございましょう

大事にお預かりいたします

僧：それでは よろしくお願ひします

こうしていつしか誰言うともなしに、居貴不動尊と呼ばれるようになりました。この時以来村人の願いを体内に納めて時を経ていきます。

* 監修 宇南山照信『時空を超えて莊嚴寺』より

七五三とは

七五三の由来は、平安時代に行われた、3歳の「髪置き」、5歳の「袴着」、7歳の「帯解き」の儀式にあるといわれています。昔は子供の死亡率が非常に高かったため、このような節目に成長を祝い、子供の長寿と幸福を祈願しました。医療が発達した現代でも、子供を思う親心が変わりはなく、七五三というかたちで受け継がれてきたのです。